

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0866
 住 所 川崎市川崎区水江町4-3
 氏 名 日東亜鉛株式会社 印
 代表取締役社長 本野 晃司
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日東亜鉛株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町4-3		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	23	非鉄金属製造業
主たる事業 の内容	鋼管、鋼構造物に対する溶融亜鉛めっき業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,511	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	製造部 技術課
		所在地	川崎市川崎区水江町4-3
		電話番号	044-266-7881
		FAX番号	044-288-4040
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成23年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 5,018 t-CO ₂ (調) 4,830 t-CO ₂	(実) 5,142 t-CO ₂ (調) 4,949 t-CO ₂	(実) 5,015 t-CO ₂ (調) 4,857 t-CO ₂	(実) t-CO ₂ (調) t-CO ₂	(実) 4,867 t-CO ₂ (調) t-CO ₂
削減率		(実) -2.5 % (調) -2.5 %	(実) 0.1 % (調) -0.6 %	(実) % (調) %	(実) 3.0 % (調) %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	t-CO ₂ /1000 t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	142.9	145.7	144.5		138.6
削減率		-2.0 %	-1.1 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	冬場は寒かった為、亜鉛を溶かす都市ガスの使用量が増加し、夏場の気温が高く空調の使用量が増加し電気の使用量が増加し、基準年度に対し、124 t-CO ₂ 増加した。
第2年度	電力使用の削減に取り組み、基準年度に対し、3 t-CO ₂ の削減をした。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	○エネルギー使用量等の把握、計測、記録等の管理○熱利用設備に係る断熱の 保安全管理○新設、更新等における措置○蒸気ドレインの廃熱回収の管理○照明設備 の運用管理
	第1年度	○エネルギー使用量等の把握、計測、記録等の管理：元になるデータを把握、計 測、記録の管理を行った○熱利用設備に係る断熱の保安全管理：一部槽の表面に 断熱用の蓋の設置計画を行った○蒸気ドレインの廃熱回収の管理：ドレイン管の腐食の ひどいものから随時交換を開始した○照明設備の運用管理：工場棟も昼間は 20%の間引きを開始した。
	第2年度	○エネルギー使用量等の把握、計測、記録等の管理：元になるデータを把握、計 測、記録の管理を引き続き行った○熱利用設備に係る断熱の保安全管理：一部槽 の表面に断熱用の蓋の設置を行った○蒸気ドレインの廃熱回収の管理：ドレイン管の腐 食のひどいものから随時交換を一部行った○照明設備の運用管理：工場棟も昼 間は20%の間引きを行った。○電力のデマンド監視装置を導入し、デマンドの管 理を行った。○大電力を使用する局所排気装置の夜間使用を一部停止した。
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

事務所棟の使用電力に再生可能エネルギーを使用する。発電設備の導入を今後検討する。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電	規模(未定) 導入場所:事務所棟	平成24年度	予定

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	廃棄物の排出量の把握、減量化を図る。
第1年度	廃棄物の排出量の把握を行った。廃塩酸：334 t 脱水汚泥：660 t
第2年度	廃棄物の排出量の把握を行った。廃塩酸：669 t 脱水汚泥：377 t
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	4,936	t-CO ₂
(調)	4,934	

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区水江町4-3	2462	溶融めっき業	4,936 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--